

～令和4年8月 データから見た業界の動き～

8月報告のポイント

原材料価格高騰は経営に深刻な影響 価格転嫁は容易ではない 全産業で見る収益D.I値は13ヶ月連続マイナス

■ 概 況

8月の県内景況のD.I値は、製造業・非製造業をあわせた全体で売上高+8ポイント（前年同月比+2）、収益状況ポイント▲20（前年同月比▲10）、景況感▲6ポイント（前年同月比+6）となり、収益状況D.I値のみ昨年対比で悪化した。

業種別で製造業は売上高▲5（前年同月比+5）、収益状況▲40（前年同月比▲20）、景況感▲15（前年同月比+10）となった。

「ウィズコロナが定着しつつあり、人流が増加、売上げが増えコロナ以前の水準に回復した」（水産物加工）と一部では売上増の報告があったが、製造業では原材料価格高騰の影響が大きいとの報告が目立ち、「資材メーカーでは値上げを行っているが、我々の生産する完成品価格への転嫁は受け入れてもらえない」（家具製造業）、「物価が高騰している今の状況では収益確保のためには価格転嫁しか打開策はない」（砕石業）との厳しい経営環境についてのコメントが多い。

非製造業では、売上高+17（前年同月比±0）、収益状況▲7（前年同月比▲4）、景況感±0（前年同月比+3）となった。

3年ぶりとなる行動規制のない夏休みシーズンとなり、「お盆休みは連日満室の組合員施設もあった」（宿泊業）、「市の消費促進策により、売上げは昨対比では増加した」（商店街）との報告があった。製造業に比べ景気回復の兆しが見えてはいるが、「燃料の高騰により相変わらず経営状況は厳しい」（旅客運送業（タクシー））、「原材料価格の値上がり分を受注金額へ上乘せするが、日々値上がりし、転嫁が追い付かない」（鉄構溶接）と原油・原材料価格の高騰の影響は全産業において変わらず、経営を続けていくために必要な「収益」確保の難しさが伺える結果となった。

現状でも収益の確保が難しい状況に置かれる中小企業にとって、今年10月中旬からは山梨県における最低賃金は過去最大の引上げがされる。

中央会では月次景況調査対象50社に対し、最低賃金引き上げによる事業活動への影響について調査し、34社（50社中の有効回答数）より回答を得た。

回答の内64%が「雇用条件の見直し」と回答し、「賃金体系の見直し」や「生産性や効率化を図り労働時間の短縮を図る（試みる）」とのコメントが多い。

次に「製品価格の見直し」が44%となり、「取引先へ理解を求め、価格交渉を根気強く行うしかない」との声があった。また、「雇用人数の減少」との回答は26%あったが、多くの中小企業は従業員の高齢化や人材の不足への対応は恒久的な課題ととらえており、一時的に企業の負担を軽減するための雇用人数調整は最後の手段と考えている様子が伺えた。

「賃金の引上は中小企業者にとっては将来の人材確保につながる」という肯定的な見方がある一方、事業（商売）が成立するように経済活性化のきっかけづくりや経営の安定化を図る取り組みを国に求める声も多い。

中央会では、専門家による経営課題の明確化、経営改善につながる支援を強化していく。

■ 業界からのコメント (業界ごとの詳細は、以下のコメントを参照)

● 製造業

<p>食料品 (水産物加工業)</p>	<p>ウィズコロナ時代への突入により人流が増え、ギフト関連商品や業務用商品の売上げが増加、売上げは前年同月比139%となった。コロナ前の水準に回復したと感じている。</p>
<p>食料品 (洋菓子製造業)</p>	<p>店舗拡大効果もあり全商品とも順調に伸長、売上げは前年同月比112%であった。</p>
<p>繊維・同製品 (織物)</p>	<p>インテリア部門は受注減のため一部の織機は稼働しておらず、ネクタイ部門でもクールビズ真っ只中のため受注が少ない。裏地部門では織機は稼働しているが、今年4月に発生したベンベルグと呼ばれる原糸の生産工場の火災の影響から、原糸の流通量が減少する兆候があり先が読めない。加えて生糸の相場が高止まりしているが製品価格への転嫁ができず不安を抱えている。傘地部門では、今年は猛暑が続いたため日傘の売上げが微増となった。</p>
<p>木材・木製品製造</p>	<p>例年売上げが落ち込む時期であるが、昨年はウッドショックの影響から木材価格が高騰し売上げ金額が増加していたことに比べて今年度当初は売上げが落ち込んだことによりその格差は大きく、売上げは前年同月比▲22%となった。 今後は売上量の増加が考えられるが、木材価格の変動によっては先行きは不透明である。</p>
<p>家具製造</p>	<p>原材料の高騰が激しい。各資材業者が5%から10%程の値上げを行っているが、販売価格への転嫁は未だ受け入れてもらえない状態。 海外製品は急激な円安と感染症による供給網の停滞(海外工場・物流)で差損と遅延が経営に影響を与え収益が減少している。また、感染症第7波の影響から、住宅向け家具市場が低迷、受注が伸びず足踏みが続いている。一般消費者向け家具市場は巣ごもり需要も落ち着き、物価高騰による値上げの影響から様子見状態となっている。人材については、募集をかけても応募がない状態が続いており、業界の魅力発信が課題と考えている。</p>
<p>窯業・土石 (砂利)</p>	<p>販売価格の値上げを行ったが、感染症の影響が続く中での電気料金や燃料価格などの値上がりにより収益確保につなげていない。</p>
<p>窯業・土石 (山碎石)</p>	<p>様々な原材料や燃料の価格高騰に合わせて、これから販売価格の値上げ交渉に乗り出そうとする組合員と、既に値上げ交渉を行っている組合員とで状況に違いがあるものの、物価が高騰している今の状況では価格の転嫁しか打開策はないとの認識は共通している。反対に、それ以外の打開策が見えないことで、日毎に閉塞感が強まっている。</p>

<p>一般機器 (業務用機械器具製造業)</p>	<p>ここ数ヶ月の受注量に大きな変化はないが、原材料等の値上がりが続き収益を圧迫、厳しい経営状況が続いている。先行きは不透明で今後の景気動向に不安を抱えている。</p>
<p>一般機器 (生産用機械器具製造業)</p>	<p>前年同月の売上高が低かったため、売上げは24%の増加となった。仕事量は確保できているものの、主要材料の入荷状況が不安定なため先行手配をしていることにより原材料コストが増加、資金繰りは厳しい状況にある。今後の景況の悪化を予想している。</p>
<p>電気機器 (電気機械部品加工業)</p>	<p>半導体不足が原因で関連部材の納入が遅れている。半完成品及び在庫が増え、売上げに結び付かないことから、前年同月に比べ売上げは▲25%となった。</p>
<p>電気機器 (電気機械部品加工業)</p>	<p>半導体関連の受注に一部停滞感がある。また、お盆休みがあり休日が多かったことから見積り依頼や新規の案件が少なかった。</p>
<p>宝飾 (研磨)</p>	<p>前年同月と比べ稼働日が少なく、売上げは▲20%となった。</p>
<p>宝飾 (貴金属)</p>	<p>金やプラチナなどの地金の価格変動にあわせて販売価格が上昇したが、売上げ・収益ともに横ばいとなった。</p>

● 非製造業

<p>卸売 (自動車中古部品)</p>	<p>例年8月の廃車発生台数は落ち込むものの、今年は過去最低となり、前年同月と比べ売上げは▲40%、収益は▲30%となった。新車の納期遅れの影響が大きく、この先も厳しさは変わらないと考えている。</p>
<p>卸売 (ジュエリー)</p>	<p>物価の高騰が消費者の購買意欲の減退に影響し始めてきたことに加え、原材料価格の高騰もあり、すぐに価格転嫁をすることができない商品もあり、数ヶ月はこの状況が続くと思われる。</p>
<p>小売 (青果)</p>	<p>感染拡大防止のための行動規制がされなかったことと、お盆の帰省による需要の高まりから、売上げの増加を期待していたが期待は外れてしまった。売上げ・収益ともに前年同月と変わらない。</p>

<p>小 売 (食 肉)</p>	<p>輸入食肉の値上がりから国産食肉の価格上昇が続いている。この状況が今後 も続くと考えている。</p>
<p>小 売 (電気機械器具小売業)</p>	<p>7月までは半導体不足による納品の遅れがあったが、8月からは順調に商品 が供給され始め、8月以前の受注分を納品することができた。また、受注量 も増え、前年同月と比べ売上げ・収益ともに増加した。</p>
<p>小 売 (ガソリン)</p>	<p>国の燃料油価格激変緩和対策事業が9月末で終了になるが、そのあとの見通し が立たず懸念している。国には緩和対策事業終了後の計画を早めに出してい ただきたい。</p>
<p>商 店 街</p>	<p>組合管理の駐車場の売上げは前年同月に比べ74%増加したが、コロナ以前の 水準と比較するとまだまだ低い。大月市P a y P a yセールが8 / 1 ~ 9 / 3 0まで開催されているため、各組合員店舗の売上げは増加しているが、商 店街で利用可能なポイントカードの発行利用は大幅に減少している。P a y P a yセール後の動向を注視する。</p>
<p>宿 泊 業</p>	<p>夏休みやお盆休みなどで連日満室の組合員施設があった。新規感染者数は高 水準のまま変化はないが、以前のようにキャンセルが相次ぐ様子は見られな い。今後は観光P Rを強化し、紅葉シーズンに向け、さらなる来場者数の増 加を期待したい。</p>
<p>一般廃棄物処理</p>	<p>各組合員の事業規模の差によって、経営者の事業承継・継続問題の捉え方に ばらつきがあり、組合の将来を見据えた取り組みへの合意形成の不安材料と なっている。現行の共同受注業務で集約可能な業務を再編し、組合員の経営 負担軽減ができる協業化も一つの手段として検討していく必要性を感じてい る。</p>
<p>警 備 業</p>	<p>公共工事が好調で警備依頼が増加しているなか、花火大会等の夏期イベント も再開し、大小問わず警備依頼が多くある。一方、人出不足により受注を抑 制しなければならず、販売価格は上昇するも売上高は伸び悩んでいる。人材 を確保しなければ、売上高は向上しない状況となっている。</p>
<p>建 設 業 (総 合)</p>	<p>公共工事では前年同月に比べ、件数は▲4.7%となったものの、請負金額では 5%の増加となった。8月末累計では、件数は▲3.8%、請負金額でも▲ 5.2%の減少となった。</p>

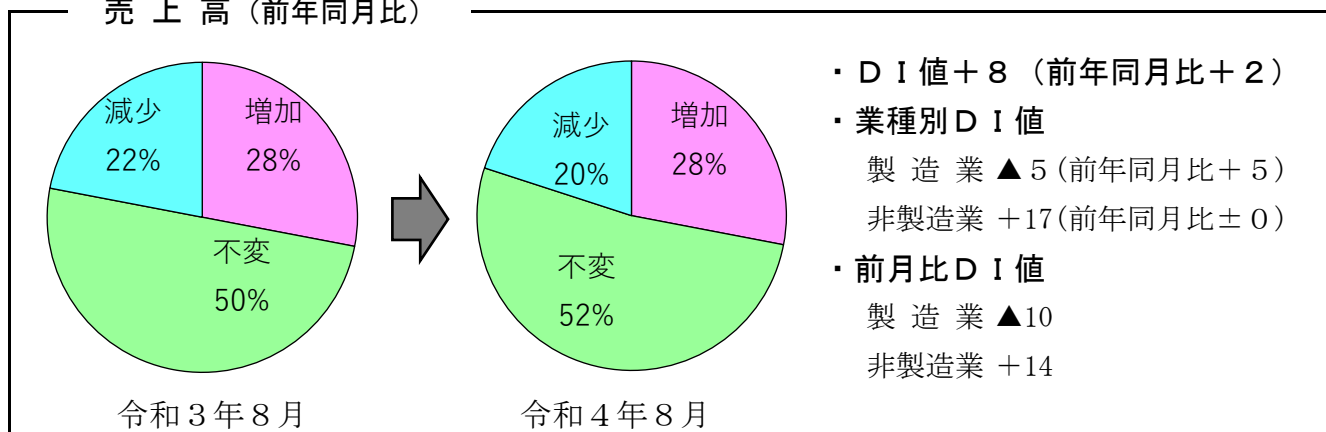
<p>建設業 (型 枠)</p>	<p>受注が増えている一方、型枠工事の主要材料であるコンパネをはじめ、木材・金物ともに、この1年間で50%~200%程価格が上昇、人件費も高騰している。しかし、請負金額は横ばいのまま上昇せず、厳しい経営状況が続いている組合員が多い。</p>
<p>建設業 (鉄 構)</p>	<p>溶接用産業ガス大手企業が今年2月に約15%の値上げを行い、さらに8月にも平均10%の値上げをした。鋼材も鉄スクラップ価格が一時に比べ値下げに転じるなど、一部の品種では価格上昇が頭打ちと思われるものもあるが、9月に多くの品種の値上げを行う予定のメーカーもあり先行きは不透明。一部では受注金額の上乗せも見られるが、材料・副資材の値上がり分に吸収され、加工費を縮小せざるを得ない状況である。</p>
<p>設備工事 (電気工事)</p>	<p>電線等の材料価格の高騰が継続傾向にあることから、厳しい状況が続いている。</p>
<p>運 輸 (タクシー)</p>	<p>前年同月に比べ売上げは20%程増加し、感染症の第7波の影響から持ち直してきたように感じる一方、日々の稼働率を増やす状況にはなっていない。燃料などが円安の影響により高騰し、相変わらず経営状況は厳しい。</p>
<p>運 輸 (バ ス)</p>	<p>感染症の影響により資金繰りが悪化、退職者は増加し人手不足の状況となっている。</p>
<p>運 輸 (トラック)</p>	<p>長引く原油高騰の影響により、収益状況は悪化の一途を辿っている。荷主へ値上げ交渉を行っているが思うように進まず、仕事量が多いが収益が得られないという悪循環になっている。また、タイヤやオイルなど車両にかかる消耗品も値上がりしており、収益状況の悪化に追い打ちをかけている。</p>

■ 対前年同月比及び前月比景気動向D I 値 (好転又は増加の割合から、悪化又は減少の割合を引いた値)

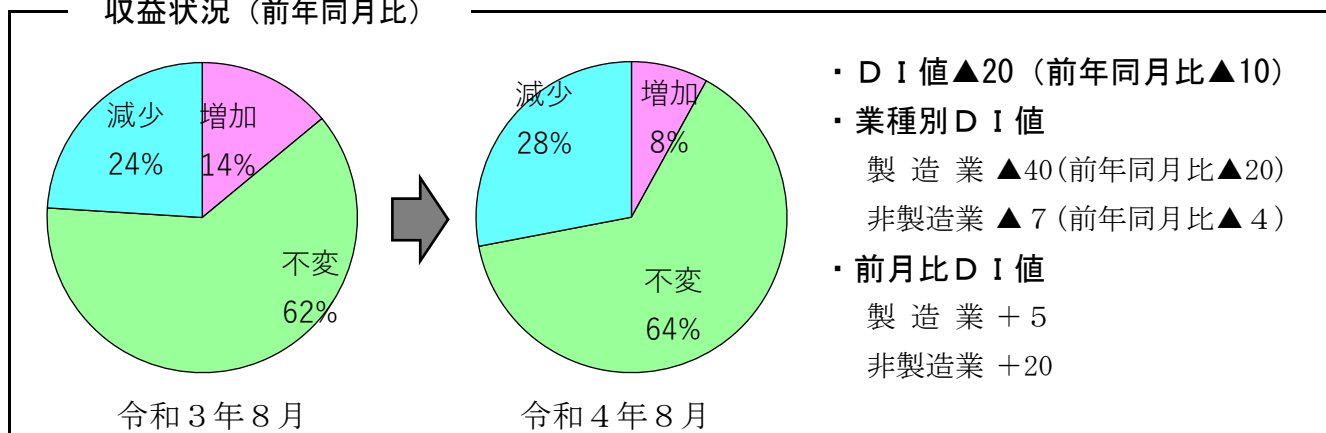
対前年・前月・当月	製 造 業			非 製 造 業			合 計		
	2021/8	2022/7	2022/8	2021/8	2022/7	2022/8	2021/8	2022/7	2022/8
売 上 高	-10	5	-5	17	3	17	6	4	8
収 益 状 況	-20	-45	-40	-3	-27	-7	-10	-34	-20
景 況 感	-25	-35	-15	-3	-7	0	-12	-18	-6

※((良数値÷対象数)×100) - ((悪数値÷対象数)×100) = D. I 値

売 上 高 (前年同月比)



収 益 状 況 (前年同月比)



景 況 感 (前年同月比)

